



新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。当むらづくり協議会の諸活動には特段のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染者は、昨年も増減を繰り返し、緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の適用が繰り返されてきました。当地区で開催予定だった「雪祭り」などの事業の中止や縮小、内容の変更など余儀なくされました。又、2月に発生した白川ダム道路での大規模な雪崩により、通行止めや時間規制が行われ、私たちの生活に大きな影響があったところです。

現在、人口減少と高齢化が進む中、地区内の農業と林業振興に関する特別委員会を設置し、検討を重ねているところです。又、地区内の町有観光施設の将来像についても検討してきましたが、まだまだ地区で出来ることやらなければならないことがあると思っています。

今年の干支は「壬寅」（みずのえとら）です。「陽気を孕み、胎動を助く」冬が厳しいほど春の芽吹きは命に溢れ、華々しく生まれることを表し、正に苦しい時期を超え、華々しい時代へと進む胎動の年ということだそうです。

そのような年に一歩でも近づけるよう、本年も、

皆さま一人一人のご協力とご指導を改めて願い申し上げます。

年頭にあたり、皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。



中津川むらづくり協議会 会長
渡部 恵介

感謝の気持ち

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましてはご健勝で新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。

昨年もコロナ禍に振り回され又、米価の大幅値下げと大変な年でした。

そんな中ですが、昨年12月22日「菅沼峠整備促進期成同盟会」の一員として 後藤町長 渡部恵介むらづくり協議会長さんと共に 飯豊5名 川西3名合わせて8名で、置賜総合支庁 県庁に菅沼峠整備促進の陳情に参加してきました。吉村知事が怪我療養中のため、就任間もない平山雅之副知事 始め 県土整備部長 総合支庁では安孫子義浩支庁長始め建設部長さん等にお会いし「菅沼峠整備促進」をお願いしてきました。これらの方々は当然アポを取ってお会いするわけですが、県庁に到着するなり後藤町長が、「県庁に来たらもう一人会っていかなんね」とスマホを手にしました。そしてお会い出来たのが、去年までの置賜総合支庁長 渡辺将之(現)産業労働部長さんでした。後藤町長の県とのパイの太さに感心したものでした。その中で渡部恵介会長の挨拶でも強調されていたことは、「感謝」の気持ちだったと思います。中津川橋損傷に対する県の対応に対する御礼、又2月に雪崩で通行止めになったところの雪崩防止フェンス設置に対する御礼の言葉。生涯初の県庁陳情でしたが、菅沼峠整備を「すぐにやります」などとは誰も言えるわけもなく、感謝の意を伝えただけでも成果があったのかなと思いました。権利だけを主張することの多い中考えを新たにしました。遅い降雪ではありましたが、県道 町道の除雪に携わっておられる13名の方々に感謝の言葉を送りたいと思います。

これからが本格的な厳冬期かと思われ、地区内の皆様に於かれましては除雪時の事故、又「スッテンコロリン」に注意し無事春を迎えられますようお祈りし年頭の挨拶といたします。



中津川地区部落長会 会長
長谷崎 文男

不安の船出

明けましておめでとうございます。

去年は帰省が控えられ子供や孫にも会えなかった時とは違い、本年の正月はにぎやかなそして充実した家族団らんを過ごされた家庭が多かったものと思います。

しかし、ようやく収まりかけていたコロナウイルスも、正月明けの爆発的感染が専門家の間では心配されていましたが、比較的少なかった本県内でさえも、感染力の強いオミクロン株の感染者が出てしまいました。ただ、感染しても重症者率は低いようで、その点はやや安心感はあるものの重症化が少ないというのは、あくまで若い人達のこと、高齢者の場合はデータがまだ不足しているためはっきりとした数値は出せないという事ようです。

また、ここにきて全国的に爆発的感染が発表され急激な勢いで市中感染が拡大しております。したがって、高齢者の集まりである“中津川寿クラブ”では、今まで以上に警戒をする必要に迫られておりますが、正しく恐れるという言葉に従って、極端に警戒することなく、その都度の情報をも逃さず些細なことも拾いながら、事業を淡々と進めていきたいと考えております。

同時に過疎化が激しい当地区にあって、いくらかでも地域づくりに役立つような、体力的に無理のない事業を新たに計画できればいいなと思っております。



会員の皆様の積極的な参加とご協力を宜しく
お願いいたします。

寿クラブ 会長
五十嵐 文雄

新年あけましておめでとうございます。

2022年の干支は「壬寅（みずのえ・とら）」です。「壬寅」は「陽気をはらみ。春の鼓動を助く」、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になるという意味のようです。まさに中津川の自然を愛し、中津川の皆さんの生命力を表しているようです。それを裏で（表で？）支える重要なポイントが私達婦人会だと自負しております。

コロナ禍での生活も2年が経過し、私達本来のパワーが発揮できずにおりましたが、引き続き感染対策に注意しながらも今年は出来る事から活動を行って参りたいと考えております。中津川中（じゅう）に婦人会の笑い声が絶えないことを目指して、中津川の鼓動を感じていきたいと思っております。

本年も宜しくお願い致します。

中津川地区婦人会 会長
伊藤 きく子



新年あけましておめでとうございます。

農家民宿は平成19年に開業し14年余り、民宿組合の仲間と共に過ごしてきました。

ここまでやってこれたのも、県・町の担当者の皆様や、地域の皆さまからの温かいご支援があったからこそ、この場をお借りして感謝申し上げます。

コロナ禍の中、自粛が続いた事によりお客様に宿泊いただけない状態が続きました。しかし、その中でも出来る事を皆でやっという、各種研修や料理講習会、リモート料理の開催、地元の食材を使って講習会などを行って来ました。

今、自分なりに振り返ってみると宿泊頂いたお客様の思いは様々で、会社の新人研修で来ていただいた若い方々は、宿泊した夜に中津川の星空を見つめ、こんなキレイな星を見たのは初めてだと言って頂いた方、台湾からインバウンドで宿泊頂いた家族の方は、日本人は親切だとは思っていたが、こんなにも親切に対応してくれる方がこんな田舎にもいる事に驚き、日本の素晴らしさを改めて再認識したと言って下さった方など様々でした。しかし何よりも、宿泊して頂いた方全員が「また来るよ！」と言ってくれたことが今後の励みに繋がり今に至っております。

民宿の仲間と共に、どんなに困った時も協力してやってきたこと、また国籍を問わず色々な方との出会いや、それらの交流での喜びがここまでやってこれた力だと思っております。コロナ禍がもう少し落ち着いたら、またお客様に来ていただき、中津川の良さを知ってもらえたらと思っております。

これからも、なかつがわ農家民宿組合へご協力くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



なかつがわ農家民宿組合 組合長
五十嵐 京子

新年あけましておめでとうございます。

コロナコロナでやりたいことも、行きたいところにも行けず世界中が振り廻された一年でした。今年こそは穏やかな当たり前の生活が出来る事になることを願っています。中津川の冬は確実にやってきました。わずかばかりの窓の隙間から外を眺めてはすることもなくぼんやりテレビを見て過ごしています。

『はてなの会』も四年目を迎えました。ゆうゆうとも違った多勢の友達の輪が出来、とても楽しく楽しみです。今年は何か一つまとまったものを、共同作業で造ってみたいと思っています。何が出来るかは仕上がってからの楽しみです。できれば地区文化祭までに完成したいと思っています。それに希望としてはどこかへ『食べ歩き』に出かけていく！という予定です。

今年寅年、私の年です。これからの人生で「1番若い日は今日」です。人のうわさや陰口などは一切気にせず健康で1日暮らせたことに感謝です。

手つかずの明日が待っています。

はてなの会 代表 岡 桂

